

2024 年度中東☆イスラーム研究セミナー（第 25 回）

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

協賛：地域研究コンソーシアム

於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文研究所 3 階マルチメディア会議室（304）

開催日：2024 年 12 月 20 日(金)、21 日(土)

## シリアのクルド民族主義組織による支配の正当化：動員資源としての「市民社会組織」

発表者：浪内 紫雲

所属：東京外国語大学大学院総合国際学研究所

世界言語社会専攻 博士後期課程

この度、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（以下、AA 研）が主催の中東☆イスラーム研究セミナー（以下、研究セミナー）に参加いたしました。私は、昨年、AA 研主催の中東☆イスラーム教育セミナー（以下、教育セミナー）に参加しました。大きく異なる点は、発表および質疑応答の時間が 1 時間であったことです。教育セミナーの倍以上の持ち時間を与えられ、質量ともに大変多くの収穫がありました。以下、感想と評価を簡単に述べます。

今回の発表では、博士後期課程 1 年目で研究した内容を、博士論文の 1 章分としてご報告いたしました。受講生と AA 研の先生のみなさまが現代政治を専門としていなかった分、私の説明力や研究背景に関する知識がより強く求められた会であったと思います。ゆえに、そのほかの研究会や学会ではあまり問われないが研究をより深めるために重要な点について、忌憚のないご意見を多くいただくことができました。また、私の研究内容に関連する歴史や人物、思想について知見の豊富な AA 研の先生方から、非常に示唆に富むご指摘をいただき、大変勉強になりました。そのほか、受講生の発表や神田先生によるご自身の博士論文とその後のキャリアに関する発表も大変興味深く、私の今後の研究に向けて参考させていただきました。

以上の感想から、研究セミナーは、2 つの点で非常に意義のある研究発表会だと考えます。まず、専門の異なる受講生や AA 研の先生方が参加することから、それぞれの専門的な観点から各研究発表に関する議論を展開することができるという点です。異なる専門の立場から見た見解は、研究の幅を広げる上で重要であり、研究セミナーではこの点を強く実感することができるため、どの受講生にとっても勉強になる機会だと思います。次に、約 1 時間の発表時間と質疑応答の時間とが与えられ、研究内容を 1 時間話し続けるだけの

情報および分析力と聴衆を自身の発表内容に惹きつけ続ける話の構想力とを鍛えることができるという点です。通常の学会や研究大会では経験できない発表時間のため、研究内容を一部省いて誤魔化すことができません。加えて、1時間議論できるだけの発表に仕上げなければならなりません。そのため、私は、準備の段階から自身の研究内容と深く向き合い、研究課題が浮き彫りになっていくのを感じていました。さらに、1時間の質疑応答を通じて自身で見つけた研究課題をより明確にし、今後の研究に向けて考え直すことができました。

そのほか、情報交換会や休憩時間などで発表時間では話しきれなかった点を議論したり、受講生同士で研究について語り合ったりした時間は、今後の研究に向けて良い刺激となりました。来年度以降も研究セミナーが開催されることを強く願っています。

最後に、多くの貴重なご意見とご指摘くださいました AA 研の先生方と受講生の皆さま、そして、本セミナーを企画および運営して下さった FSC 事務局の皆さまに心よりお礼申し上げます。